

学校部活動の新たな地域クラブ活動への移行



第760号

発行人 ● 豊丘村公民館
館長 市澤和宏
編集人 ● 長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村

(6月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,250人
女 3,273人
総人口 6,523人
世帯数 2,248戸

部活動改革の背景 なぜ移行するのか

教育長 王生英文

学校部活動は、学習指導要領において学校教育の一環として位置付けられており、異年齢との交流の中で生徒同士や生徒と教員等との好ましい人間関係を構築したり、活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきました。

しかし、※1少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており存続が厳しい状況にあります。

また、※2教員への負担が大きめという実態も見過すことができず、本人の意思や専門性の有無について十分な配慮ができない状況で、教員が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することが一層難しくなっています。

※1 希望する活動が選択できなくなる。学校単独での活動や大会参加が厳しくなる。

※2 約六割の先生が未経験部活指導を担当。時間外勤務、休日を含む長時間労働等。

このような社会情勢の変化等に対応するため、国は、令和二年九月「休日の部活

動の段階的な地域移行の方針(文科省)を示し、令和五年度から地域移行を開始することを正式決定し、「総合的なガイドライン」を公表しました。また、県は令和六年三月「県の指針」(県の推進ガイドライン)を示し、休日の部活動を令和八年度末までに移行を終え、平日もできることから移行を進めることとしました。

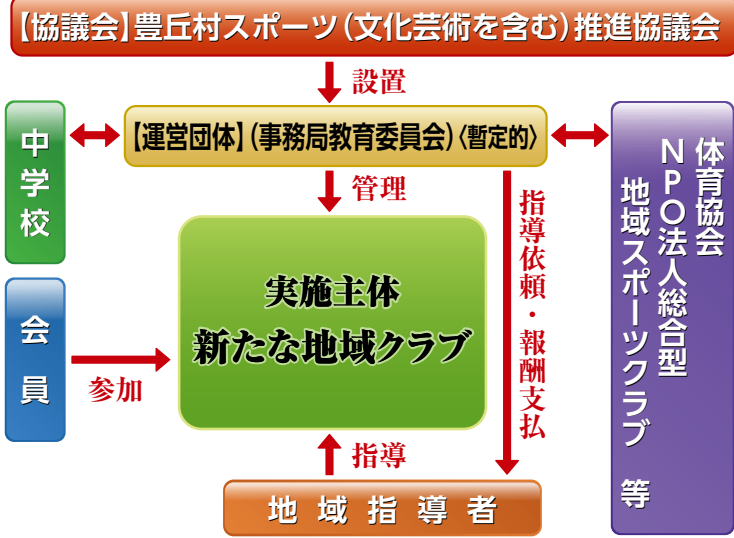
豊丘村の運営体制

村では、令和四年十月に「豊丘村スポーツ推進協議会(文化芸術を含む)」を立ち上げ、地域スポーツ・文化芸術環境作りの方向を検討してきました。今後「豊丘村スポーツ推進協議会」が運営団体(暫定的に教育委員会)の取り組み状況を把握し、適正な地域クラブ活動を保障するために指導・助言を行います。

「実施主体」は、現在、中学校で設置している活動種目毎の部活ですが、総合型地域クラブや体育協会が地域クラブを運営する場合のように、実施主体を一体

「新たな地域クラブ」の構想

一、部活動とクラブの関係



平日は部活動として部活動顧問が指導。休日は「クラブ」として地域の指導者が指導することを基本とします。

部活動顧問とクラブ指導者は、連携を密にして、指導の方向を共有し、練習を進めます。

二、クラブへの参加

クラブの趣旨に賛同する生徒(保護者承諾)が参加する。部活動に参加していない生徒も、クラブに参加することが出来ます。

三、指導者

広く地域から募集します。(中学生の健全育成に寄与する志がある方)

四、参加費用

一定額の会費の徴収と「スポーツ安全保険」に自己負担で加入していただきます。

五、「指針」に沿った活動時間の原則

地域移行の課題

一、運営団体・実施主体

・原則朝部活なし
・週11時間(平日2時間×4日+休日3時間)

一、運営団体・実施主体
・事務局員、コーディネーターの配置。首長部局と一体的運営体制
・ガバナンスコードに準拠した運営管理と実施主体の確立

二、指導者の確保と育成
【指導者登録届募集】(教育委員会又は学校にお問い合わせください)

三、会費負担
公平な会費負担の原則

四、予算の確保
受益者負担と公費負担の検討

まだまだ検討途上にあります。皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

成人講座 AIをめぐる技術的楽観主義とその哲学的背景

成人講座
開催中です

運営委員長 木下浩一

今年度も、公民館成人講座を開催できる運びとなりました。開催八回目である今年、テーマを『予測不可能な時代をいきる』と据え、全四回の講座を設定して、現在開催期間中です。各回とも、豊丘村交流センター「ゆめあるて」で行われます。すでに二回が開

催済みです。今後の予定は七月六日の十五時から、公民館学習会との共催で、若宮正子氏。最後に、七月十七日の十九時から古谷経衡氏という四名の豪華なラインナップで実施されます。去る五月二十二日の十九時より、その第一回成人講座が開かれました。東洋大学教授の松浦和也氏による「AIをめぐる技術的楽観主義とその哲学的背景」という演題でした。

技術の進歩により、今やAIが世界中を席巻しています。AIは万能的でありあらゆる社会的問題を解決できるかのような「技術的楽観主義」が蔓延していますが、果たしてそうでしょうかというところがこの日の中心課題でした。AIに人間的な知性があるか確かめる方法として、イギリスの数学者、アラン・チューリングの「チューリングテスト」があるそうです。しか

し、この結果からは、AIは人間の知性を再現するに過ぎず、模倣ゲームをしているだけで、本当に役立つとは言えないのではないかと思われました。

我々が、AIは人間と同等もしくはそれ以上に、社会に役立つと判断するために、AIだからと盲従するのでなく、哲学的見地に立ち、見極める大切さを強調され



先日所要により五年ぶりに東京へ出かけた。二泊三日と短期間であつたため上野公園を中心に見物したが、大型連休前半でもあり、人であふれていた。外国人、それに中学校の修学旅行と思われる人々が目立った。またコロナ禍の五類化によりインバウンド需要が加速したことで観光客が増加したのは間違いなさそうだ。上野だけで五つの博物館、美術館があり、一日かけて何箇所かを回ろうと事前に計画したのだが、予想外に疲れてしまい午前中だけの一箇所で精一杯。つくづく体力が低下していることを痛感せざるを得なかった。リニア新幹線の開通が当初計画から遅れ、順調に進んでも今後十年もかかることが明らかになったが、何とか乗れるように健康を維持したいと思っている。

各種報道で東京の最近の状況はわかってはいるつもりであったが、実際に目の当たりにすると風景の変化が著しく大いに刺激を受けた。好景気時代に建築された高層ビルや高速道路等の構造物の多くが寿命を迎えつつあり次々と再構築する必要があると言われている。更に渋谷、新宿、池袋等のターミナル駅は一層の利便性を図って改造を続けている。魅力ある都市作りに向けて莫大な投資額だ。遠くない将来に予想されている巨大地震等に耐えうる都市作りであつてほしいと願わずにはいられない。

(桐崎長二)

段丘

公民館報『とよおか』
五大ニュースをさかのぼる
(五) 昭和45年

昭和45年の5大ニュースは道路整備と交通事故の問題など、近代化にともなう

昭和45年(1970年)の五大ニュース 総投票数645票		
1	主要道路の舗装完成	100票
2	米の減反で農業大揺れ	80票
3	村史編纂に着手	57票
4	福祉センター連日大盛況	56票
5	第二次農業構造完全事業策定	55票
5	交通戦争ますます激化	55票

交通事故の光と影を反映した話題が選ばれた。農業でも農業構造改革事業に期待する一方で、コメ余りから減反政策に翻弄される姿が浮き彫りになった。

①前年度から始まった主要村道のアスファルト舗装は、年末までに17、362kmが完成。ただしバス路線が主体で、その他の村道の舗装工事はまだ続いた。

②日本の農業の中心だった稲作は、戦後の食生活の変化で消費量が減り、生産過剰となった。この年から国が都道府県ごとの生産量を

決めた上で、農協などが農家ごとに生産量を割り当てた。当時の神稲、河野両農協の倉庫には前年産米がた

③豊丘村の歴史や自然をまとめた『豊丘村史』を作るためのプロジェクトが始まった。郷土史家の小沢万里氏、武田彦左衛門氏らを中心に、村の歴史や状況をまとめることとなった。当時は多くの自治体で同様の動きがあった。

④前年に完成した総合福祉センターは村内外から多くの利用者があった。青年団、4Hクラブ、青年学級など主に若い世代の利用が

多かった。結婚式の利用が多く、この年12月までに33組が挙式。実行委員会方式で安く利用できた。当時叫ばれた生活改善運動の一環だった。

⑤水田の基盤整備や果樹団地の造成、機械化の補助事業を盛り込んだ第2次構造改善事業が計画された。ただし前述の米の減反政策に協力することが前提だった。

⑥11月に保育園児が交通事故の犠牲になり、村はカーブミラー、ガードレール、道路標識を増設。舗装道路を飛ばす車が増え「道路を戦場と覚悟せねば生き抜けない物騒な時代」と嘆いた。

★この年の出来事

いざなぎ景気（昭和41年～）終る／カドミウム・農

石原裕次郎は、俳優や歌手として活躍した伝説的な存在だ。俳優としては多くの名作映画に出演し、その演技力で多くの賞賛を集めた。特に黒部ダム建設の苦闘を描いた『黒部の太陽』は感動作品だ。ただ石原慎太郎の弟であったことが彼の人生を決定付けたことも事実だ。兄の芥川賞受賞作『太陽の季節』の映画化の際、プロデューサーであった水の江瀧子の推薦により映画界入りが実現した。昭和三十一年のことだ。その後彼の人間性や誠実さと相まって、認知度を高め世間に名を広げた。カリスマ性あふれる歌声や魅力的な演技、及びその人柄や行動も加わり我々世代の多くの人々に感動を与えた。彼は慈善活動や社会貢献活動に

も積極的に関わり、人々に希望や勇気を与える存在として尊敬されている。残念ながら一九八七年に、五十二歳の若さでこの世を去ったが、今なおその人気は廃ることなく多くの人の心に深く残っている、と思っているのは私だけではないだろう。カラオケでも彼の歌を耳にするし私自身も歌う。

歌は世につれ～ 三十三話

石原裕次郎

南市場 桐崎 長一

札幌、『粹な別れ』、『港町涙町別れ』などの数々のヒット曲がある。そして生前録音していた『北の旅人』『わが人生に悔いなし』が死後に発売され、特に北の旅人は百二十五万枚を売り上げるヒット曲となった。彼の曲は全般的に哀愁を帯びたメロディで親しみがありかつ歌いやすい。北の旅人の一節より



▲黒部ダム

▲釧路港

ネパールの釈迦族の王家に生まれたシャーカームニ（後のブッダ）は、妻と子捨て、王族の地位も捨て、それから永い修業の旅に出たと知る。

ブッダガヤも修行の地である。インド各地を放浪し永い旅路の果てにたどり着いた地。従えた多くの弟子たちも共に旅する修業の旅だったのだろうか。

僕はコルカタから夜行列車に乗り、早朝にブッダガヤに到着した。駅から牛車に揺られ寺院に向かう。初めて見るマハーボーディ寺院は空にそびえたち威厳のある寺院だった。古いレンガ構造で組み立てられている。高さは五十メートルを超えて圧倒される威容であり、インド独特の寺院建築だ。

寺院の菩提樹の下でブッダは永い間に渡り、厳しい苦行を続けていたといわれる。永い間に渡る生死の境を行き来するかのような修業は、ブッダの身体をも蝕んでいく。その苦行の有様をみていた村の娘のスジャータは、ある日、乳粥を、衰弱し倒れたブッダに差し出すのであった。樹下に座し身体を極限まで追いつめていたブッダは、そのスジャータの乳粥を飲み干した。苦行のみでは悟りを得られないと気づいたといわれる。『アンタチャブルとよばれ、蔑まされていた最下層の貧しい女の子から施しを受けた…』

と、弟子たちは、修業を捨てたブッダのその姿をみて、師の下から立ち去っていったと伝えられている。その地に立つて初めて、ブッダなる人物像と仏教という深い宗教の世界を、より深く知りたと思うようになった。

チベット寺院での一夜

この村の周囲は田園に囲まれブクルとよばれる小さな池がいくつもあり、のどかな田舎の村という印象である。大樹の木陰でチャイ（ミルク紅茶）を売る屋台でひと休みする。

アメリカからのひとり旅の女学生、フランスからきた演劇学生たちに、バンダラデシユからの私も一緒にいる。インドの地になんかの知識もない旅行者にとって、こうした旅人仲間との出会いと、各地の情報が関心の的になる。僕にとつての旅は、より安価であることが一番だけれど、興味ある場所は旅仲間たちからの情報が一番である。

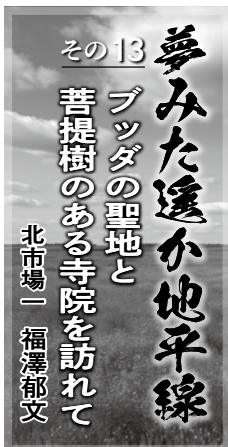
その夜はチベット人が経営する、村の小高い丘にあるチベット寺院に泊まることに決める。大部屋に七人での雑居寝となった。夜もふけアラブの国の旅はなしから、演劇論など遅くまで語り合う。

旅人たちの真ん中においたローソクの灯が、うしろ姿の揺らぐ影を写し出す。僕は即興でみんなのシルエットを白壁にチョークで描きながら聞いていた。演劇を専攻する学生らのダンスも飛び出した。

ブッダガヤには三日ほどいただろう。日本寺院を訪ねたり、村の中をさまよい歩き回った。太陽の日差しの下に、のどかで目的のない時間がゆったりと過ぎていく日々だった。道で出会った若き



木版画・福澤郁文
／ガンジスで沐浴するミトゥナ



北市場 福澤郁文

薬汚染など各種の公害が全国的に広がる

★ヒット曲

『黒ネコのタンゴ』皆川おさむ／『ドリフのズンドコ節』ザ・ドリフターズ／『圭子の夢は夜ひらく』藤圭子

監督：筒井 芳夫さん
吉川 達郎さん
文責：王生 雅穂

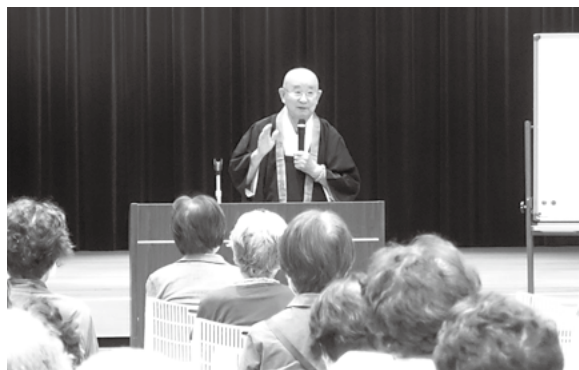
第1回 公民館学習会

『楽しい一日を』

中川村延寿院 伊佐住職

五月十七日に令和六年度第一回公民館学習会が行われました。講師は延寿院の伊佐住職です。『楽しい一日を』ということで、楽しい一日を過ごすための心の持ち方を仏教用語を使わず分かりやすくお話ししていただきました。怒ることない物事のとらえ方を笑顔で過ごすことで、楽しい一日を過ごすことができ長生きにもつながると教えていただきました。

公民館主事 丸山美香



日本人の僧侶、彼がこの地の日本寺院で修業していると聞き、自分との余りにも異なる意識の違いに、その出会いが記憶に残った。

妖しく古い街ベナレス

ベナレスはインドでも最も有名な観光地のひとつである。街中の喧噪、狭い道をのんびりと歩く白い牛たち。観光客もデカイ牛のシリをよけて通る。薄汚れた壁の宿舎の数々、暗い部屋にうごめく人の影、河川敷にある死体焼き場などガンジス川に面したガンガには、裸のサドゥ修行者や沐浴する人びと、インド各地からやってきた観光客であふれかえる。

小舟でガンジス川を渡ってみる。悠久の大地を流れるガンジスの大河で沐浴をし、身を浄める人々の姿に、旅人になった僕は、なにか違和感を感じながらも、人の生と死の世界が同時に感じられるこの地で、歩むべきわが人生のこれからの時間を想像してみるのがあった。

とよおか100年前

『豊丘村民話集』より

田村の桃太郎会

鷹見栄雄

大正十五年一月三十一日、田村諏訪神社に社碑を建てるため、田村堤防上から新道を通って現場まで、台石の運搬が行われたのでした。会員は新調の法被にねじり鉢巻き、ほかに大人三十人余、学校生徒男女二百人の応援を得て運動会の綱引き用の綱二本を使って、会員の「オンベイ」を振っての「サーサ、皆さまお願いダヨ」の音頭に皆が声を合わせ「ソーレヨイショ」のヨイショと引いたのであります。道中、景気をつけるため大人は酒、子供はミカン、菓子を配り、屋敷は柿外土の堺梨、真根の下、玉木屋さんの三軒で大勢の女衆がおむすびを握って炊き出しし、現場に

四月十日の春季祭典には池野天竜(伴一)先生が一枚一枚丹念に描かれた猿、雉、戌のお面を全員がかぶりそろうの法被を着、桃太郎には会長が扮し、大きな大八車へ宝物を積み、「一日本」の幟を立て、犬が車を



社碑の裏に刻まれた「大正十五年三月建之桃太郎會」

引き、雉が綱を引き、猿があとを押しての仮装行列が漆沢橋から道中を獅子舞、屋台のあとに続いて境内へと練り歩き、社務所横には高い櫓が組まれキビ団子の

投げ餅がたくさん投げられ実に盛大な春祭りが行われたのであります。会長をされた(塚越)今村さん宅に保管されていて詳細に記載されている記録簿を参照させていただきました。事を書きました。

(豊丘村民話集・第三集)

(昭和五十三年)より

文責：壬生雅穂

図書館だより

6月号

〆お楽しみ会のご案内〆

図書館では、七月のお楽しみ会を開催いたします。日時：七月二十八日(日) 十時三十分

場所：ゆめあるて 研修室一・二

〆移動図書のご案内〆

七月の移動図書

二日(火) 伴野勤労者福祉センター

五日(金) 壬生沢福島集落拠点施設

時間 午後八時～九時

〆本の紹介〆

『和ハーブ図鑑』

古谷 暢基(著)

和ハーブ協会

江戸時代より前から日本

(図書館 松尾こずゑ)



小中学校で音楽鑑賞教室

音楽鑑賞教室

今年度も五月二十一日十二日に小中学校で音楽鑑賞教室が行われました。今回演奏してくださったのは豊丘村公演グループ名の『さつき弦楽四重奏団』の方たちで、メンバーはバイオリン二名ヴィオラ一名チェロ一名の四名です。曲目はクライスラーより『美しきロスマリン』『愛の悲しみ』『愛の喜び』、モーツァルトの『ディヴェルティメント』、日本人作曲家吉松隆の『アトムハーツクラブ』の一部を演奏いただきました。演奏中子どもたちは静かに聞き入っていました。メンバーの皆さんは、子どもたちに生の楽器をまじかで見て聞いてほしいと子ども達のすぐ近くで演奏をしてくださいました。曲の合間には楽器の説明をしてくれたり、演奏する曲の説明をしてくださいました。小学校での演奏の最後には学校の校歌を演奏してくれ、子ども達は大きな声で歌っていて楽しそうでした。今後このようなプロの演奏を感じられる事業が続くとよいと思います。

片桐 洋子
森田 恵子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
矢島千勢子

俳句 短歌

大百合の紅の蓑喪服にまつはりぬ
夏来たる托鉢の毳捨りんのこす
母忌日墓石彩る藪椿
鉄入れ急がす生け垣風薫る
開拓碑歳みな若く黄砂降る

〈とよおか短歌会〉

草かけば去年に探しし手草搔き出でしが柄は朽ち刃金錆びおり
兵士の妻「ブーチン」ダモン返せ「片やママーシヤ」カチューシヤの歌
男曾孫はランドセル背負い得意げに笑顔あふれる入学の朝
今日もまた鶯の声探している姿は見えねど遠く近くに
晩に刻を告げる雄鶏の体内時計まどうことなし
寒空に雪山かくれ逝きし朋何処の旅よ里めぐる春
幸せを確かめるごと二輪草白き花卉に花柄二本
夕暮れのスパで値引きの札貼るを待てば後ろに同じ人居り

池田 美和
細井 恵子
吉川 明子
鎌倉 秋広
北原 昭子

松尾ヒサコ
福澤貴美恵
壬生 千春
大原真由美
福澤 郁文
毛涯百合子
福澤 亀人

▼課題「配」 福沢勝美 選

ばあさまが配る確かな目分量
若者のこころ配りにほっとする
軸吟：配給で命つないだ戦時中

▼課題「業」 互選

農業を切りすてたつけ自給率
農業の田畑なくなり家が建つ
大企業次から次と不正出で

▼自由吟 山本義彦 選
うら金で続く政治に配慮なし
物価高庶民の稼ぎ追いつかず
軸吟：量刑が軽いかなぜに人殺す

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

川柳

公民館主事 丸山美香

こちら資料館 河野日誌にみる東京との往来

河野秀男氏は毎年何回か東京と実家のある河野を往復しているが、日誌に初めて出てくるのは明治三十七年義兄(姉の夫)の急死による帰省である。

秀男氏は二月一九日の夜電報を受け取り、翌朝汽車で上野を発っている。当時はまだ中央線が開通していなかったため、信越線で篠ノ井に行き、篠ノ井線で塩尻、そこから先は歩くか馬車等を使うしかなかった。秀男氏はその時の行程を細かに記している。

『二〇日上野発一〇時五〇分、午後四時頃高崎着。乗り換えて六時高崎発、篠ノ井着夜二時。丸屋旅館に泊まる。二二日五時半篠ノ井発、

八時過ぎ塩尻着。馬車に乗り換える。悪天候で路面が非常に悪く夕方坂下(伊那町)着。箕輪屋に泊まる。二二日馬車で坂下発。正午赤穂着。人力車に乗り換え午後四時、阿島の姉の嫁ぎ先に到着。既に葬儀は終わっていた。』

帰路は、二月二九日にこちらを発ち、来た道を逆戻りする形で、途中二泊して三月二日午後九時に上野に到着している。さて、中央東線の新宿・塩尻間が全通したのは明治三十九年六月で



ある。翌四〇年の夏、秀男氏はお盆の帰省の旅を簡潔に日誌に残している。『八月一五日午前七時四五分飯田町駅(現在の飯田橋駅近くにあった中央線の駅)発。午後四時過ぎ辰野駅到着。伊那町の箕輪屋泊。一六日伊那町を出て七久保日陰坂で昼食。午後二時出原を経て龍ノ口まで来たが出水の為城山に回って四時頃帰宅。』

明治四〇年当時、万年橋、明神橋、台城橋はまだ無く、天竜川を渡る手段としては変だったのである。(資料館主任 唐澤武彦)

～シリーズ～ 豊丘の自然
No.245
トラマルハナバチ・キムネクマバチ・コマルハナバチ
（ミツバチ科）



先月の続きを書く。写真をご覧下さい。私は大きさと模様（黄色の位置）で四種類ではないかと同定した。念の為、飯田美博の四方さんに見てもらった。私が見た図鑑とは別のハチ専門の図鑑と顕微鏡を使って三種類と同定。説明によれば写真の後方の二個体は女王バチと働きバチのこと。整理すると、写真前

左：トラマルハナバチ、右：キムネクマバチ、後左：コマルハナバチの働きバチ（♀）、後右：同・女王バチ（♀）。
ところで、前号で、キムネクマバチ（ペボウ）にされた記憶がないと書いたが、ここに紹介した四個体の内の二個体には、さされて痛めにあった。記憶がいだったのだろうか。いや!!。では、正解は。



●山間部は山の傾斜に沿って道が作られどうしても曲りの小道となっています。

冬の風景には雪が似合います。雪の溶けた道路がより曲線を強調してくれました。雪が溶ける頃の冬の田んぼには土手の曲線が現れます。曲がりうねった土手だけでも絵になります。手前に抑えの柿の木を画面



強みを表現できます。遊歩道はほとんどが変化に富んだ曲線が多いことから、人物を入れることで変化が生まれます。手前に来るほど道幅は広く感じることで、周辺の草木などで道の面積を減らすことを考え、葉などで隠すことでさらに立体表現ができました。手前道の先端は自分に向かってくることで、この力強さから逃げないことも重要でしょう。曲線の道もあれば川の流れる曲線もあります。



写真という狭い空間の中に少しでも視線を留める工夫が大切です。色彩も多くて三色（同系色）までですっきりさせることが大切。フォトマスター級 宮下正弘

息子は北小の六年生。小学一年の夏から空手を始めました。空手と言ってもいくつか種類があり、息子がやっている空手は総合格闘技空手（禅道会）といい、パンチ、蹴りだけではなく、投げ、締め技、関節技まである空手となります。



息子の成長
堀口 秀明
（中部三）

三年連続で
空手の強化選手
堀口将太さん

初戦、試合が始まると、怒涛の攻撃で相手を圧倒して勝利。その後の試合も相手を圧倒し、見事優勝する事ができました。そこから本人は空手の目的が護身から、試合に勝つ為に変わっていききました。

「パパ、相手を倒してくるよ」と頼もしく言っていたのが今でも私の脳裏にはつきりと焼きついています。

結果は、なんと相手を全く寄せ付けず、全試合一本勝ちで優勝。息子に勝因は？と聞くと、沢山練習して自分に自信が付いたのと、勝つことに拘り過ぎず、練習でやってきた事を試す事を意識した、との事でした。この数か月で随分と成長したものです。この優勝もあり、二〇二四年度の強化選手に三年連続で認定され、今年十二月に行われる「東京国際大会」への出場も決まりました。

初めの国際大会、優勝して世界一になって欲しいけど、余り言うプレッシャーになるので、とりあえずしっかり練習して納得のいく戦いをしてもらいたいと思います。

将来の夢は稼げるプロ格闘家。頑張れ！

練習も本道場での稽古の他、他道場への出稽古も積極的に行い、実力も徐々に付いていきました。その後も県大会、全国大会でも带上を相手に圧倒して優勝し、小学三年の四月に全日本ジュニアユース（強化選手）に当時最年少で認定されました。本人の希望で、昨年の七月に飯田市のキックボクシングジムに入会しました。そのお陰もあってか、打撃技術も格段に向上していき、迎えた今年の三月、飯田市で行われた空手の大会。息子の相手は同年代の異なる階級の日本王者達。私は焦りました。息子は笑みを浮かべながら一言、「全然負ける気がしない。普通に勝てるでしょ」

結果は、なんと相手を全く寄せ付けず、全試合一本勝ちで優勝。息子に勝因は？と聞くと、沢山練習して自分に自信が付いたのと、勝つことに拘り過ぎず、練習でやってきた事を試す事を意識した、との事でした。この数か月で随分と成長したものです。この優勝もあり、二〇二四年度の強化選手に三年連続で認定され、今年十二月に行われる「東京国際大会」への出場も決まりました。

初めの国際大会、優勝して世界一になって欲しいけど、余り言うプレッシャーになるので、とりあえずしっかり練習して納得のいく戦いをしてもらいたいと思います。

将来の夢は稼げるプロ格闘家。頑張れ！

練習も本道場での稽古の他、他道場への出稽古も積極的に行い、実力も徐々に付いていきました。その後も県大会、全国大会でも带上を相手に圧倒して優勝し、小学三年の四月に全日本ジュニアユース（強化選手）に当時最年少で認定されました。本人の希望で、昨年の七月に飯田市のキックボクシングジムに入会しました。そのお陰もあってか、打撃技術も格段に向上していき、迎えた今年の三月、飯田市で行われた空手の大会。息子の相手は同年代の異なる階級の日本王者達。私は焦りました。息子は笑みを浮かべながら一言、「全然負ける気がしない。普通に勝てるでしょ」



練習も本道場での稽古の他、他道場への出稽古も積極的に行い、実力も徐々に付いていきました。その後も県大会、全国大会でも带上を相手に圧倒して優勝し、小学三年の四月に全日本ジュニアユース（強化選手）に当時最年少で認定されました。本人の希望で、昨年の七月に飯田市のキックボクシングジムに入会しました。そのお陰もあってか、打撃技術も格段に向上していき、迎えた今年の三月、飯田市で行われた空手の大会。息子の相手は同年代の異なる階級の日本王者達。私は焦りました。息子は笑みを浮かべながら一言、「全然負ける気がしない。普通に勝てるでしょ」

新編集委員紹介
施設と村の
架け橋に
岡部 琴

今年度より編集委員を務めさせていただきます、岡部琴と申します。愛知県の大学で社会福祉学を専攻し、卒業後は地元である下伊那に戻ってきました。昨年より慈恵園の職員として、豊丘村の地域の



皆様は大変お世話になっております。地域や慈恵園でのイベントを始め、日頃から子どもたちを見守っていただき、子どもたちの成長に欠かせない地域での活動に、今年度より編集委員を務めさせていただきます。愛知県の大学で社会福祉学を専攻し、卒業後は地元である下伊那に戻ってきました。昨年より慈恵園の職員として、豊丘村の地域の

働いていると分からなくなりがちな感覚ですが、一般的には閉鎖的で、何をしたいのか、どんな生活をしていくのか、謎に包まれたイメージを持つ方が多いのではないかと思います。そこで、今回公民館に携わる機会をいただき、地域の方々に施設の活動や子どもたちのことを知っていただくことが増えれば嬉しいなと考えています。

また、私自身豊丘についてまだ知らないことばかりです。編集委員の活動を通して、豊丘村の魅力をより知ることができると楽しみにしています。不慣れではありますが、地域の皆様と一緒に活動したいと考えています。お届けるよう、精一杯努めてまいります。